

株式会社エージーピー 2019年度第2四半期決算説明資料



空を想い、技術を極め、環境社会を創る。

2019.11.13

本日本話しさせていたいただくこと



2019年度第2四半期 業績概要 **P3**

2019年度業績見通し **P12**

その他 **P14**

(企業理念、当社を取り巻く状況、
環境への取り組み)

2019年度第 2 四半期業績概要

Executive Summary



- 2019年度第2四半期業績は、対前年では増収減益。中部空港において動力事業開始の効果もあり動力事業は好調であった一方で整備事業は別件工事が減少したが全体では増収となった。営業費用は原材料費と人件費の増等により、増収以上に費用が増加し、営業利益では減益となった。
- 対計画では、2019年度第2四半期の売上は未達であったものの、利益は上回る結果であり、**通期業績は期初の業績見通しを据え置き。**
- 自己資本比率は60%を超え一時的に高止まり。

TOPICS

【8月】新千歳空港 国際線ターミナル拡張（3SPOT）

【9月】中部国際空港 第2ターミナルオープン（10SPOT）

2019年度第2四半期業績サマリー



連結損益計算書

対前年同期比

(単位：百万円)

	2018年度 2Q実績	2019年度 2Q実績	増減額
営業収益	6,279	6,797	+518
営業費用	5,749	6,304	+554
営業利益	529	493	▲36
営業利益率 (%)	8.4%	7.3%	▲1.1pt
経常利益	523	494	▲28
四半期純利益 ¹	270	331	+60

営業収益内訳²

(単位：百万円)

	2018年度 2Q実績	2019年度 2Q実績	増減額
動力事業	2,750	3,061	+311
整備事業	1,584	1,542	▲42
施設事業	805	878	+73
セキュリティ事業	301	336	+35
フードシステム	291	161	▲129
新規事業	281	296	+14
GSE等販売	265	520	+254
合計	6,279	6,797	+518

連結貸借対照表

対前期末比

(単位：百万円)

	2018年度 期末	2019年度 2Q実績	増減額
総資産	13,675	13,653	▲21
有利子負債残高	558	396	▲161
自己資本	9,123	9,319	+196
自己資本比率 (%)	66.7%	68.3%	+1.5pt
ROE (%)	10.0%	-	-

第2四半期時点では、対前年で増収減益。動力事業が前年同期比大幅増収となっている。利益ベースにおいても、動力事業が牽引し、全体では若干の減益ではあるが想定範囲内。

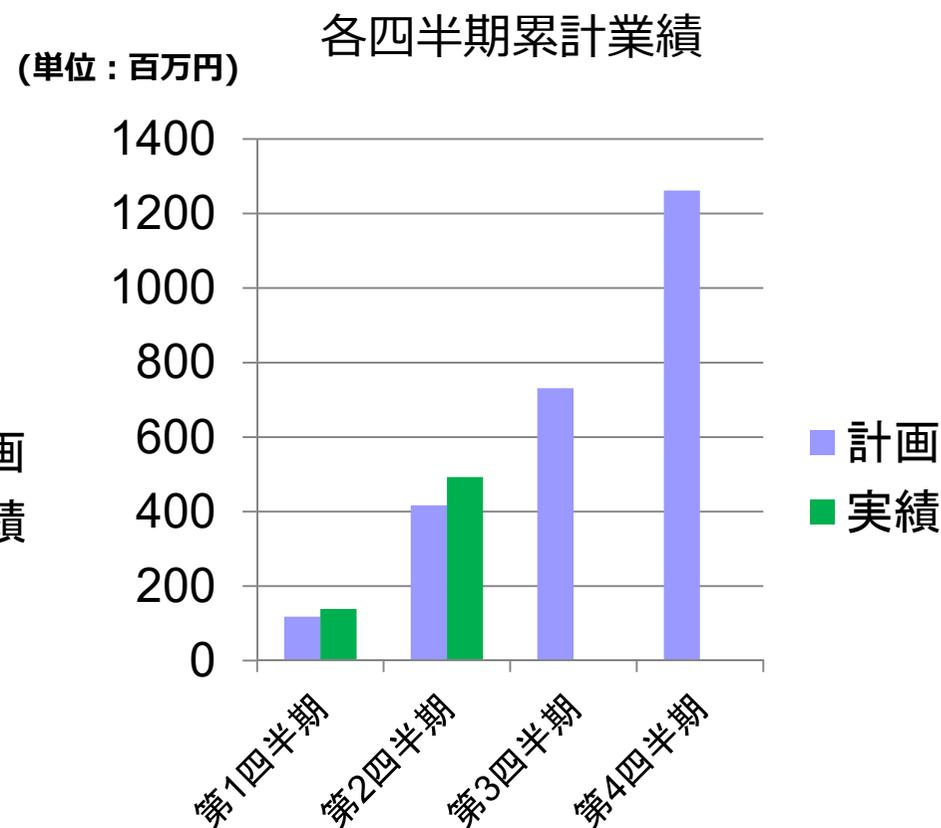
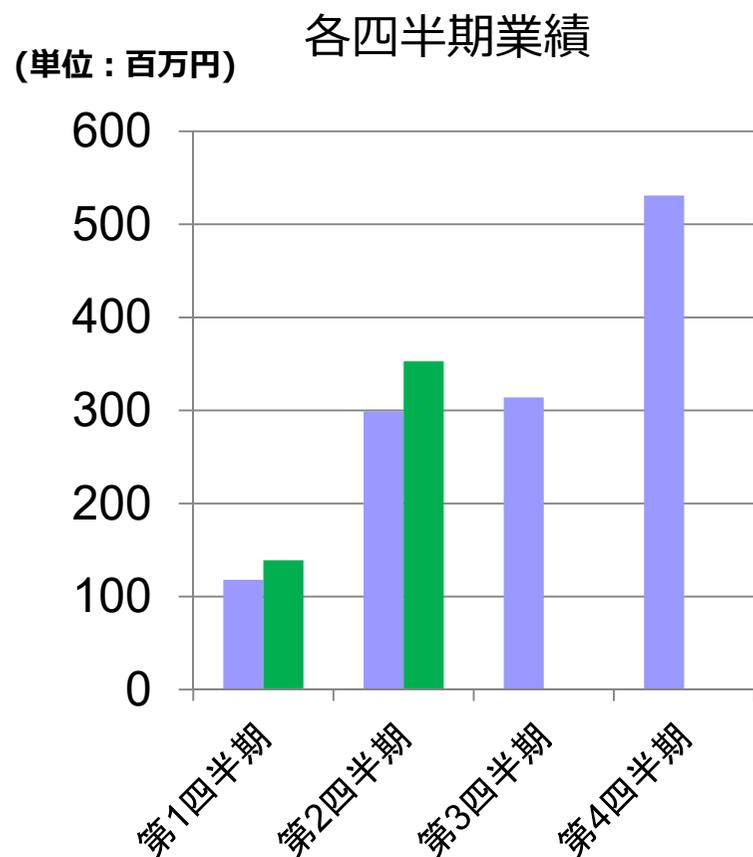
自己資本比率は60%超 (50%以上の確保が中期目標)

1 四半期純利益は親会社株主に帰属する四半期純利益

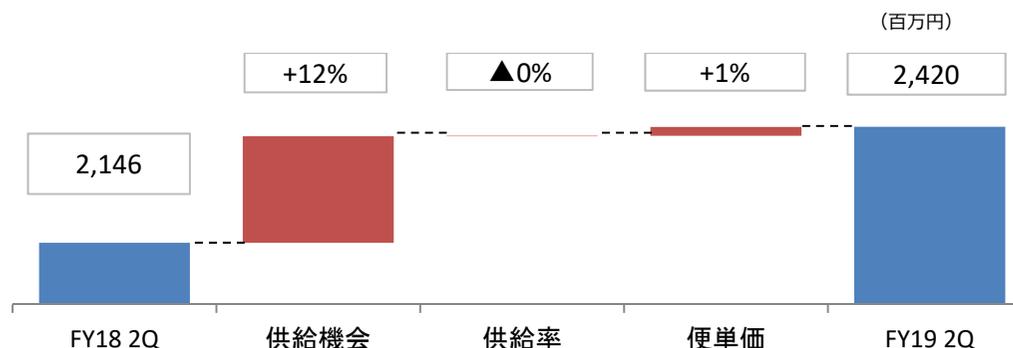
2 営業収益の事業別内訳は決算短信の報告セグメント別収入を組み替えて表示
制度会計では整備事業と施設事業を合わせて整備事業セグメント、セキュリティ事業・フードシステム事業・新規事業・GSE等販売事業を合わせて付帯事業セグメントとしている

四半期営業利益の対計画進捗

営業利益段階で計画を達成しており、利益計画の進捗は順調。
(例年とおり、後半に利益が積みあがる計画であり、下期が重要)



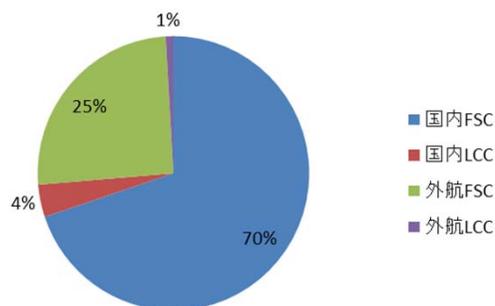
対前年動力電気収入増減要因分析【動力事業】



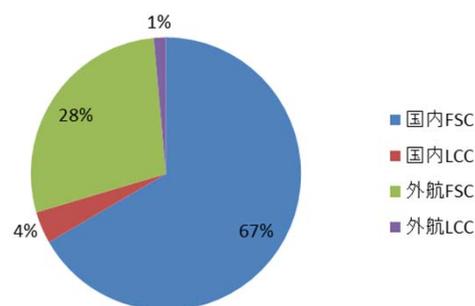
FY18 / FY19 2Q 電気収入比較【NGOを含む】

	電気 売上 (百万円)				供給機会 対前年比	供給率 前年差	便単価 対前年比
	FY18 2Q	FY19 2Q	差異	対前年比			
国内FSC	1,499	1,613	115	107.7%	108.1%	+0pt	99.6%
国内LCC	82	92	9	111.6%	114.9%	▲0pt	97.6%
外航FSC	545	680	135	124.8%	123.4%	+0pt	100.7%
外航LCC	20	35	15	177.7%	128.2%	+3pt	114.0%
全体	2,146	2,420	274	112.8%	112.1%	▲0pt	100.9%

FY18 2Q 電気収入売上比率



FY19 2Q 電気収入売上比率



【FY18 2Q/FY19 2Q要因分析】

2018年10月1日より中部国際空港の事業移管を受け、中部国際空港における動力事業を開始したことで供給機会が大きく増えている。

外航FSCやLCCの供給機会の伸びが著しい。2Q以降は、A350やB787の更なる取込みや、外航FSCの取込みによる供給率向上を目指す。

注 FSC : Full Service Carrierの略
LCC : Low Cost Carrierの略
NGO:中部 (空港3レター)

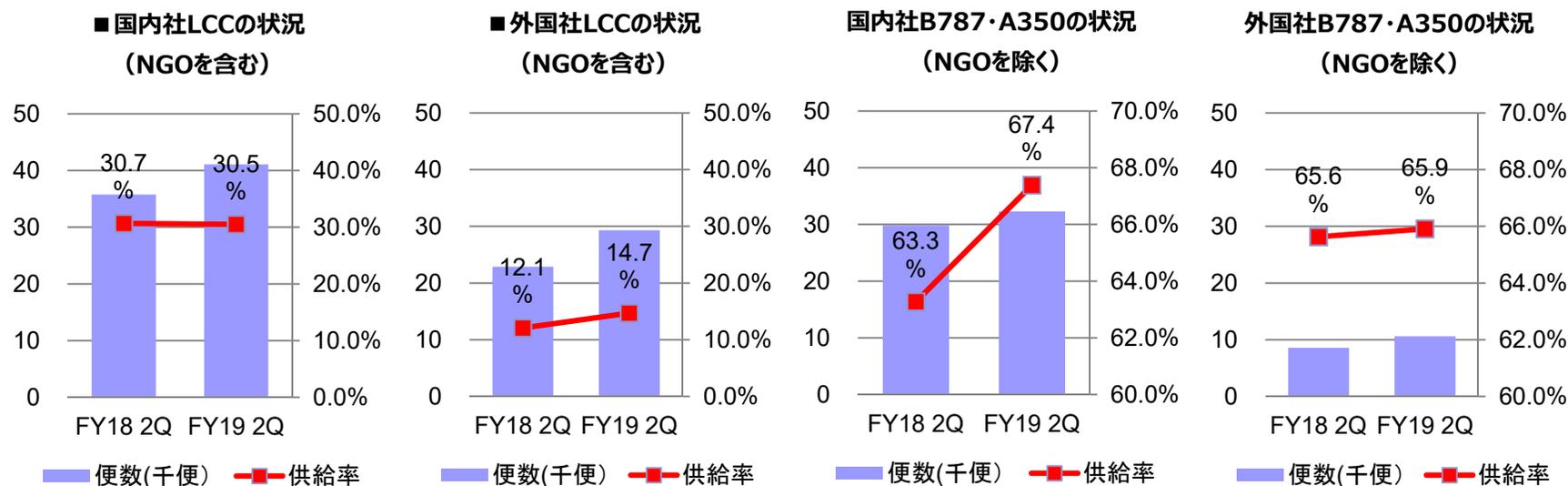
供給率向上に向けた施策

【動力事業】



■ 供給率向上に向けた取り組み実績

- A350・B787取込みに向けた180kVA化工事
- 使用実績によるコストメリットや二酸化炭素削減効果を使用しての営業活動
- 空調を有効活用した営業活動（暑い・寒いに対応するきめ細かい温度管理等）
- 電源ニーズに対応した移動式電源車のリース事業の提案



空港外案件の拡大

【整備・付帯事業】



➤ 整備事業における空港外案件の拡大

単位:百万円

	FY18 Q2	FY19 Q2
空港内売上	1,259	1,078
空港外売上	325	464

*空港内売上は空港会社、空港ビル、航空会社からの受注

■ 主な空港外案件

- 埼玉 物流システム施工管理業務
- 埼玉 物流システム保守点検
- 広島 物流システム保守点検
- 佐賀 物流システム保守点検
- 名古屋 物流センター夜間立会業務
- 大阪 物流システム点検
- 沖縄 ロジスティクスコンベヤ工事

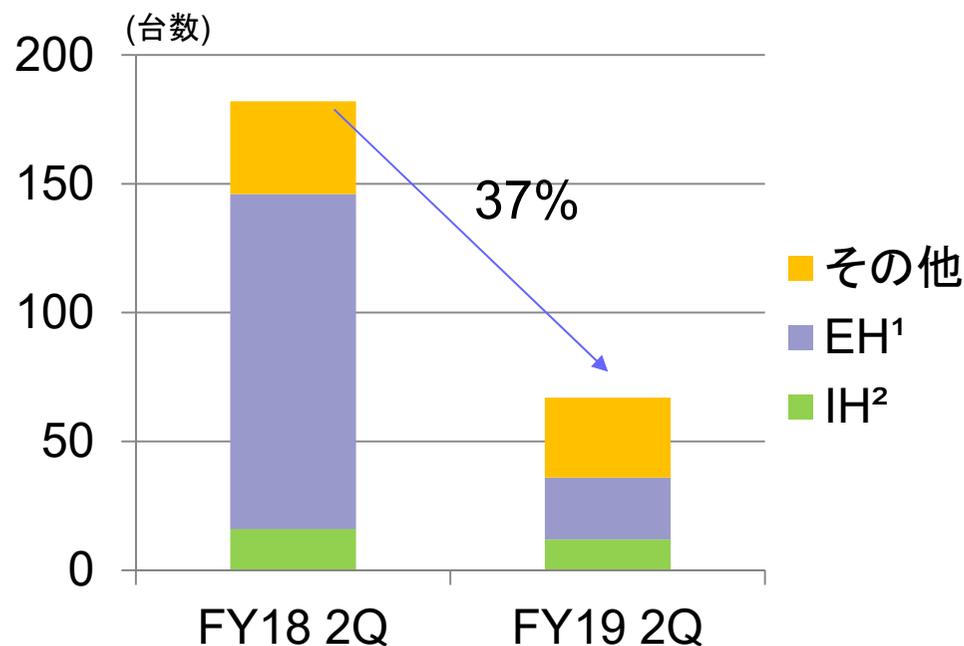
➤ セキュリティ事業における取扱機器台数の拡大

単位:台

	FY18期末		FY19 Q2	
	空港内	空港外	空港内	空港外
X線検査装置	166	137	190	155
金属探知機	134	41	143	48
爆発物検査装置	181	109	210	113
その他	58	0	66	0
合計	539	287	609	316

フードカート販売状況

【付帯事業】



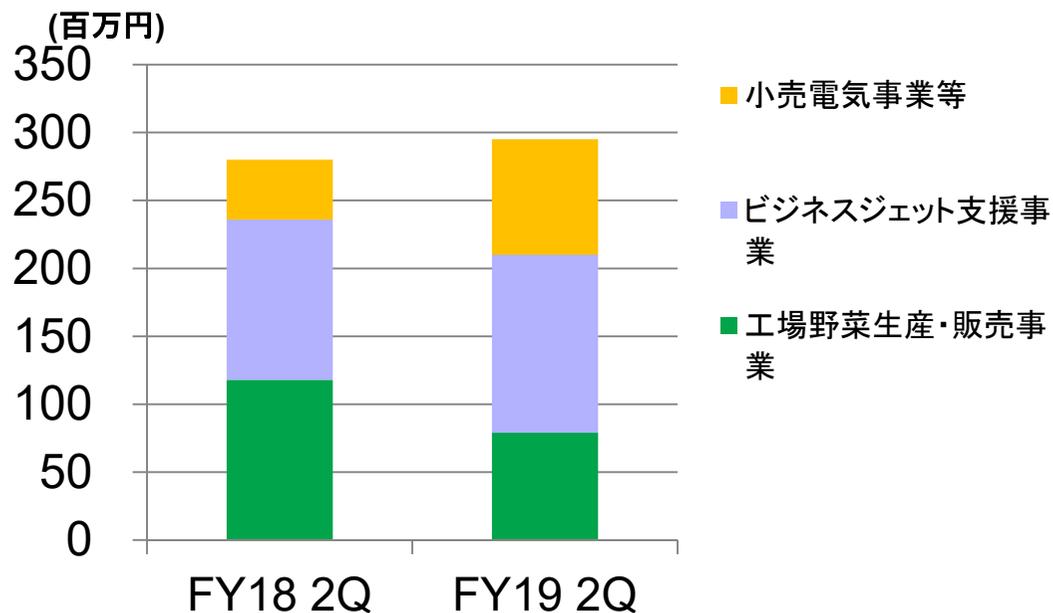
2019年度第2四半期のフードカート販売台数は、再加熱、その他カートとも小口の受注であり、対前年と比較しても大幅減少であるものの、これは計画通り。

(件数/台数)	FY18 2Q	FY19 2Q	増減	備考
病院 (内リピート案件)	6件/140台 (6件/140台)	3件/24台 (3件/24台)	▲3件/▲116台 (▲3件/▲116台)	FY18 2Q 大口病院更新案件発生 (EH 121台更新)
病院以外 (内リピート案件)	8件/42台 (3件/28台)	11件/43台 (10件/33台)	+3件/+1台 (+7件/+5台)	
合計 (内リピート案件)	14件/182台 (9件/168台)	14件/67台 (13件/57台)	±0件/▲115台 (+4件/▲111台)	

1 EH : ヒーター加熱でチルド帯での保冷機能を備えた再加熱カート
 2 IH : 電磁誘導加熱(Induction Heating)技術を応用したチルド庫対応再加熱カート

新規事業売上高

【付帯事業】



BJ支援実績	FY18 2Q	FY19 2Q
定期駐機契約数	5機	5機
臨時(SPOT)駐機	14機	22機
クリーニングサービス	9回	8回
トローリングサービス	100回	102回
N2供給サービス	11回	12回
O2供給サービス	—	10回
ウォーターサービス	—	24回
ラバトリーサービス	—	27回

レタス販売実績	FY18 2Q	FY19 2Q
業務用	63,626kg	41,607kg
店舗販売	102,819袋	70,580袋



小売電気販売状況

種別	契約合意 件数		見積完了 件数		見積依頼 件数	
	FY18期末	FY19 2Q	FY18期末	FY19 2Q	FY18期末	FY19 2Q
高圧	71	83	550	785	706	853
低圧	1,065	1,278	1,950	2,493	2,469	3,104



2019年度業績見通し

2019年度業績見通し



連結損益計算書

(単位：百万円)

	2018年度	2019年度 計画	増減額
売上高	13,818	14,800	+981
営業費用	12,462	13,500	+1,038
営業利益	1,356	1,300	▲56
営業利益率 (%)	9.8%	8.8%	▲1.0pt
経常利益	1,352	1,250	▲102
当期純利益 ¹	877	770	▲107

連結貸借対照表

(単位：百万円)

	2018年度	2019年度 計画	増減額
総資産	13,675	15,158	+1,483
有利子負債残高	558	735	+177
自己資本	9,123	9,518	+395
自己資本比率 (%)	66.7%	62.8%	▲3.9pt
ROE (%) ²	10.0%	8.3%	▲1.7pt

期中改善による営業利益率10%、ROE10%の達成を目指す

営業収益内訳³

(単位：百万円)

	2018年度	2019年度 計画	増減額
動力事業	5,475	5,670	+195
整備事業	3,925	3,920	▲5
施設事業	2,240	2,140	▲100
セキュリティ事業	608	570	▲38
フードシステム 事業	453	500	+47
新規事業	558	750	+192
GSE等販売 事業	556	1,250	+694
合計	13,818	14,800	+981

台風復旧のリバウンドがあるものの、事業環境が良好な既存事業の基盤を強化しつつ、成長戦略の加速を両立させ、新規事業、GSE等販売を拡大し売上高148億円を計画。

¹ 当期純利益は親会社株主に帰属する当期純利益

² (当期純利益*) / (期首・期末平均自己資本)

* 当期純利益は親会社株主に帰属する当期純利益を用いて計算

その他

(企業理念、当社を取り巻く状況、
環境への取り組み)

企業理念

AGPグループは、技術力を極め、環境社会に貢献します。

- ・ 環境に優しく、安全で豊かな社会の実現に貢献します
- ・ お客様に選ばれる技術・サービスを誠実に提供し企業価値を高めます
- ・ 燃える挑戦心を持った社員とともに成長します

長期ビジョン2025(骨子)

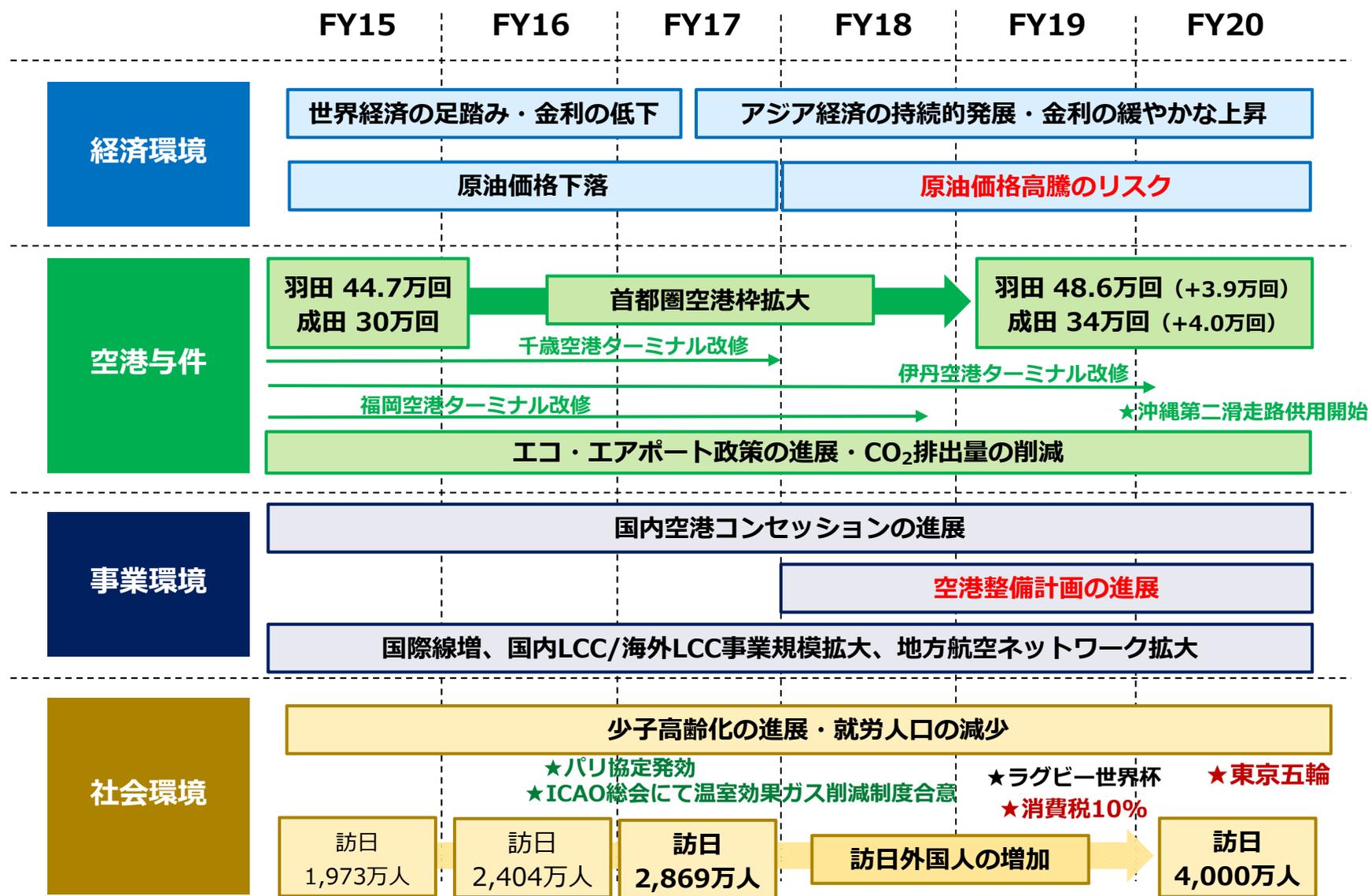
(2014.12.25策定)

AGPグループは、高い技術力と環境社会への貢献によって、空港インフラ機能を担う信頼される企業になるとともに、空港の安全を守るために培われた技術を日本中の街へ、さらには海外へとお届けします。これにより、今後10年間で

- ・ 売上200億円、営業利益率10%以上を安定的に達成できる企業になります
- ・ 空港外の売上比率3割以上を目指します
- ・ エコ・エアポートの実現を通してGPU利用を促進することにより、主要空港のCO2排出量を13.5万トン削減し、地球の温暖化防止に貢献します

(注) GPU : Ground Power Unit (地上動力供給装置)

当社を取り巻く状況



環境への取り組み実績

CO₂ 排出量の削減

(単位 : t-CO₂)

(t-CO ₂)	FY18 削減実績	FY19	
		削減目標	2Q実績
CO ₂ 削減量 *1	316,887	329,000	172,745

*1 GPUの利用によるAPUからのCO₂排出削減量
対象空港 : CTS・NRT・HND・NGO・ITM・KIX・UKB・HIJ・FUK・OKA

エコ・エアポート活動 取り組み実績 (全支社・支店)

	FY17 活動実績	FY18 活動実績	FY19 2Q実績
活動項目 件数 *2	59 件	96 件	64件

*2 1つの活動項目を1件とカウント (FY18から清掃活動は1回/1件とカウント)

環境への取り組み 事例紹介



エコ・エアポート活動

※「エプロン清掃」と「エコドライブ」は、全支社・支店 実施項目



CTS エプロンクリーン活動



NRT エコドライブキャンペーン参加



NRT 空港周辺道路美化活動



ITM ごみゼロキャンペーン参加



KIX ごみゼロキャンペーン参加



NGO 空港クリーンアップ大会参加



AGPO 会社周辺クリーン活動



本社/HND
大田区 空の日フェスティバル

当資料に記載されている事業名は管理会計用。開示用に作成している連結財務諸表又は個別財務諸表においては、現時点での事業の性格、量的な重要性等を勘案し、整備事業と施設事業をまとめて整備事業、セキュリティ事業、フードシステム事業、新規事業、GSE等販売事業をまとめて付帯事業として報告しています。

当資料は、弊社の現在の計画、見積り、戦略、確信に基づく見通しについての記述がありますが、これらは現在入手可能な情報から得られた弊社の判断及び仮説に基づいています。

当資料に記載されている将来の業績予想は、技術、需要、価格、経済環境の動向により変化が発生する可能性があり、将来における弊社の業績は当資料に記述された内容と大きく異なる可能性があります。従って、弊社が設定した目標は、全て実現することを保証するものではありません。

お問合せ先



株式会社エージーピー 経営企画部

電話: 03-3747-1638

FAX: 03-3747-0707

URL: <http://www.agpgroup.co.jp>